



東ティモール

学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業

2022年 事業報告書

活動情報

プロジェクト名	学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業
目標	子どもや識字率の低い成人の学習成果の向上、家族の幸せに貢献する
意図する成果	男子、女子の学習成果の向上 ジェンダー平等と家族の社会的・経済的な幸福度の向上 本事業のサステナブル化

支援契約内容

支援期間	2022年7月1日 - 2027年6月30日
支援総額	\$ 7,471,522.00
報告期間	2022年7月1日 - 2022年12月31日 ¹

進捗報告

作成者	Marcelino Martins (ラファエック・プロジェクトマネージャー) Shoaib Danish (LSE ディレクター)
監査役	Peter Goodfellow, Nelina de Sousa
その他関係者・相談役	Anito Ximenes, Simplicio Barbosa, Jose da Costa
承認・提出者	Shoaib Danish
報告日	2023年2月1日

¹ニュージーランド外務貿易相における年度配分の変更に伴い、本レポートは6か月間(2022年7月1日 - 2022年12月31日)を対象としています。

目次

活動情報.....	1
目次.....	2
略語一覧.....	3
要旨.....	4
主な実績.....	5
ラファエック・マガジン.....	5
教師向け講習本.....	6
コミュニティとの連携.....	6
政府、寄付者および市民社会との連携.....	7
モニタリング結果.....	8
学生の結果.....	9
教師の結果.....	9
コミュニティ・メンバーの結果.....	9
ラファエックの社会的企業化.....	10
オンライン・プラットフォーム.....	10
国内メディアで紹介されたヤング・ジャーナリストたち.....	11
横断的な課題.....	12
男女共同参画、子どもの保護、包摂性、セーフガード.....	12
ラファエックの成果.....	14
関連性：.....	15
効率性：.....	15
サステナビリティ：.....	15
戦略と教訓.....	16
戦略的・運用的課題：.....	16
教訓.....	17
次回の報告期間における優先事項.....	17

略語一覧

CBPE	地域密着型プリスクール
CITL	ケア・インターナショナル 東ティモール事務所
CODIVA	ダイバーシティとアクションのための連合
DG	取締役社長
EAMO	Ermera Aikulat Mutin Organic
FGD	フォーカス・グループ・ディスカッション
GMN TV	国営テレビ メディアグループ
GoTL	東ティモール政府
GPQ	ジェンダーとプログラムの質
HANDS	Halimar, Aprende no Deskobre Susesu
INDDICA	国立子ども権利研究センター
INFORDEPE	国立教員研修所・教育専門職研修所
KOICA	韓国国際協力団
KSTL	東ティモール共和国
LLM	ラファエック事業
MEAL	モニタリング評価、説明責任、学習
MFAT	ニュージーランド外務貿易相
MHVF	Mane ho Visaun Foun
MoEYS	教育・青年・スポーツ相
NZAID	ニュージーランド援助プログラム
RHTO	Raes Hadomi Timor-Oan
RTTL	ラジオ テレビ 東ティモール
SEII	Sekretaria Estado Igualdade no Inklusaun
UN	国際連合
UNDIL	ディリ大学
UNDP	国連開発計画
UNICEF	国連国際児童基金（ユニセフ）
UNITAL	東ティモール大学ロロサエ校
UNTL	東ティモール国立大学

この報告書は、2022年7月1日から12月31日までのプロジェクト実施全般の概要を説明するものであり、東ティモールにおける表示期間中のラファエック・プロジェクト（LLM）全般を概説しています。このプロジェクトは、東ティモールのケア・インターナショナル（CITL）によって管理・実施されています。各指標に対する進捗の詳細は、付録B：成果測定表に対する進捗に記載されています。

2022年6月、CITLは主要な長期パートナーであるニュージーランド外務貿易省（MFAT）と、ラファエック・プロジェクト（LLM）の実施をさらに5年間延長することに合意しました。この延長により、東ティモールのケア・インターナショナル（CITL）とラファエック・プロジェクト（LLM）は、東ティモールの教育部門の発展を促進することを目的とし、教育・青年・スポーツ相（MoEYS）と連携して進める、家族の経済的・社会的幸福を支えるための、読み書き能力、計算能力、批判思考、ジェンダー平等、障害受容、衛生、女子のリーダーシップ、女性の発言、教授法、農業・健康・栄養管理の向上に焦点を当てた支援を継続することができます。

4冊のラファエック・マガジンは、最も都心から離れた僻地を含むの国内すべてのプレ・プライマリースクールの生徒、そしてそのコミュニティに届く唯一のテトゥン語の読み物教材であり、全国の生徒、教師、地域社会にとって不可欠な補助学習教材となっています。教育・青年・スポーツ省（MoEYS）と共同で開発されたラファエックの内容は、国のカリキュラムと密接に連携しています。雑誌として印刷・配布されるだけでなく、ラファエックの公式ウェブサイト（www.lafaek.tl）でもデジタル版が公開されています。

ラファエック・プロジェクトは、この6ヶ月の期間を通して、生徒、教師、保護者向けに以下の4つの雑誌の2版（2022年の第2版と第3版）を制作・配布しました。

- 「ラファエック・キーク」：ユニセフが支援する地域密着型のプリスクールを含む、プリスクール、1年生、2年生向け
- 「ラファエック・プリマ」：3年生から6年生向け
- 「ラファエック・バ・モノリン」：プレスクールから6年生までの教師向け
- 「コミュニティ・ラファエック」：成人向け、コミュニティレベルでの情報提供や啓発 MFAT の提言に基づき、ラファエック・プロジェクトでは、教師のための参考書として、授業計画をサポートする教師用ガイドブック「リヴル・セマティック・バ・モノリン」を新たに導入し、授業の補完に役立っています。

「リヴル・セマティック・バ・モノリン」は、過去の教師用雑誌に掲載されたラファエックのコンテンツを主に収録しており、追加の参考書および教師用ガイドとして機能します。2022年12月に内容は完成しましたが、MoEYSの国家カリキュラム部門との協議と承認プロセスは、報告期間終了時点でも継続中でした。承認プロセスが完了されれば、2023年5月中に印刷され、教師に配布される予定です。

本報告書執筆時点では、2023年第1号の制作工程が終了し、印刷所へ送付されました。

さらに、報告期間中、プロジェクトは各自治体で1回ずつ、**13回**のコミュニティ・ダイアログを実施しました。これらのセッションには**581人**（男性289人、女性292人）が参加しました。これらのコミュニティ・ダイアログは、女性たちの積極的な参加と主導に焦点をおいて開催しています。

このプロジェクトでは、若い学生や若者（障がいを持つ人を含む）が、東ティモール社会のさまざまな分野で重要な女性のロールモデルにインタビューしました。これらのインタビューの一部は、国営放送で放送されました。

最後に、報告期間中、ラファエックチームは、ラファエックの Facebook ページの広告料で発生した合計 **500 US ドル** を含む、合計 **128,000 US ドル** の資金を生み出しました。



図1: CNJTL 会長の Maria Dadi Soares Magno 女史にインタビューする若い学生たち（ラファエックのヤング・ジャーナリストとも呼ばれる Welciana と Antonio）。

主な実績

ラファエック・マガジン

ラファエック中間評価（2022 年）では、ラファエックを手にした人は、手洗い場を持っている確率が 13% 高いことがわかりました。また、ラファエックを読まなかった人に比べて、1 つ以上の COVID-19 予防策を知っていて、1 つ以上の COVID-19 予防策を使っている可能性が高いという結果が出ました。さらに、ラファエックを手にした女性は、読んでいない人に比べて、母親の健康をサポートする行動を 2.6 つ多く知っていました。これは、ラファエックを読んでいる母親は、より健康であることを意味しています。

この報告書は、2022 年 7 月 1 日から 12 月 31 日までの間に達成された成果のみを対象としています。この期間中、各版で **1,617 校** の公立・私立のプレスクールおよびプライマリーにリーチしました（プレスクール 439 校、プライマリー 1,178 校）。合計 **228,033 部** の「ラファエック・キーク」が、プレスクール 1 年生、2 年生の生徒（平均で男性 54,674 人、女性 51,060 人、うち障がいのある男子 17 人、女子 27 人）に配布されました。「ラファエック・プリマ」**263,648 部** は、小学 3 年生から 6 年生に配布されました（平均男性 65,328 人、女性 60,421 人、うち障がいを持つ男子 15 人、女子 15 人）。1 版あたり、「ラファエック・キーク」ポスター **5,357 部**、「ラファエック・プリマ」ポスター **9,378 部** を配布しました。

教師用マガジンは、各版とも、プレスクールから 6 年生までの教師（平均で男性 4,519 人、女性 5,227 人、うち障がいのある教師は男性 2 人、女性 2 人）に計 **24,224 部** 配布されました。また、「ラファエック・バ・マノリン」のポスターは、2 版とも **2,356 枚** を全国のプレスクール、小学校に配布しました。

東ティモール全土の合計 **103,967 世帯** に、各版のコミュニティ・マガジンを配布しました。合計 420 部のコミュニティ・マガジンが、地方および国の関連パートナーに届けられました。

さらに、ビケケとエルメラにあるユニセフが支援する 103 のコミュニティのプレスクールにもラファエックを提供しました。生徒や教師に配布された雑誌とは別に、さまざまな政府関係者、スポンサー、国際開発セクター、国連機関にも追加コピーが配布されました。

4つの雑誌に掲載するコンテンツを生徒や先生、学校の責任者から収集するため、ラファエックの制作チームは、この期間中に**22**の小学校の入学前・入学後の学校を訪問しました。

教師向け講習本

「リヴル・セマティック・バ・マノリン」は、外部諮問委員（MoEYS、MFAT、CARE）の審査・承認を得た「ラファエック・バ・マノリン」過去号掲載の記事をまとめた、教師向けの独自のレessonプラン資料ガイドです。コンテンツの編集は、2022年12月に終了しましたが、本報告期間終了時点でMoEYSの国家カリキュラム部門との協議が進行中でした。

「リヴル・セマティック・バ・マノリン」の内容は、MoEYSのプレおよびプライマリースクール教師向けの国家カリキュラムに密接に関連しています。内容は主に、言語学、科学、自己啓発の3つの分野に焦点を当てており、9つのカリキュラム構成要素で構成されています。主な構成要素は、テトゥン語とポルトガル語の読み書き、数学、自然科学と社会科学、芸術、文化健康、体育などです。さらに、口語言語学と宗教的背景は、横断的な分野とされています。

「リヴル・セマティック・バ・マノリン」は、教師が指導セッションやレessonプランを作成するための、追加ガイドおよび参考資料として機能します。この雑誌は、国家カリキュラムに謳われている生徒中心の教育方法の実践を強化するものです。3学期に1回発行されるラファエック・マガジンとは異なり、1年に1回発行され、全国の小学校の全教員に配布される予定です。

コミュニティとの連携

ラファエックのチームは、コミュニティのメンバー、特に女子や女性との直接的な交流の価値を理解しています。雑誌の内容を社会化するだけでなく、コミュニティ、特に限界集落やそこに住む女子や女性のコンテンツのニーズについてさらなる洞察を得るために、チームは定期的にコミュニティ・ダイアログ・セッションを開催しています。報告期間中、ラファエックは各自治体で1回ずつ、合計**13回**のコミュニティ・ダイアログを実施しました。これらのセッションには**581人**（男性289人、女性292人）

が参加しました。長年にわたり、プロジェクトはこれらのセッションの構成と時期を変更し、女子と女性の参加と主導を最大化するようにしました。一部のコミュニティ・ダイアログでは、女性や女子が安心して十分に参加できるように、女性と男性の別々のセッションが同時に進行されることになっています。



図2：トマトソースの作り方の手順を地域住民に指導するラファエックのチームメンバー（2022年8月23日、Oecusseにて撮



図3：2022年8月23日rd、Oecusseで行われたコミュニティ対話セッションで、ニュージーランド大使とその配偶者が、コミュニティが作ったトマトソースを試食。

また、生計に関わるさまざまな活動のデモンストレーションも行いました。例えば、ココナッツやバナナから様々なチップを作ったり、古着からバッグを作ったりするコーナーがあります。ラファエックチームは、コミュニティ・ダイアログの中でこれらを実演し、参加者はグループでこれらの活動を実践するように促されました。さらにチームは、毎日の栄養補給に必要な栄養価の高い食品を栽培するために家庭菜園を利用する方法についても、コミュニティのメンバーに話をしました。

セッションを通して、ラファエックチームは、現在および将来の雑誌の内容に関する参加者のフィードバックを記録し、議論します。このようなフィードバックやブレインストーミングの話し合いでは、女性や女子の声を聞くことに特別な配慮がなされます。記録されたメモは、今後の改善のために、より大きなラファエックチームと共有されます。

コミュニティ・ダイアログで取り上げられたテーマは、コミュニティのニーズによって様々でした。しかし、ほとんどの場合、「コミュニティ・ラファエック」の内容を社会化することに主眼が置かれており、農業、栄養、妊産婦の健康などに関する改善策を紹介するものでした。また、ジェンダーに基づく暴力（GBV）、子どもの保護、セクシャルハラスメント、搾取、虐待の防止、子どもの教育の重要性などについての会話も行われました。

また、生計に関わるさまざまな活動のデモンストレーションも行いました。例えば、ココナッツやバナ



図4：ココナッツとバナナの木からチップを作る段階的なプロセスについて、コミュニティ・メンバーに指導するラファエックのチームメンバー（2022年8月23日、Oecusse）

政府、寄付者および市民社会との連携

中央政府、地方政府、市民社会組織との連携は、東ティモールにおけるラファエックの活動にとって不可欠な要素です。このアドボカシー計画は、ケア・インターナショナルのアドボカシー戦略フレームワークに沿って、私たちのアドボカシー活動を強化するために作成されました。私たちは、この計画がプロジェクトのアドボカシー課題を導き、促進し、MOEYS、MOH、INDDICA、RHTO、SEII、大統領府の主要な意思決定者に影響を与え、対象受益者のニーズへの対応に向けて集団で活動できるようになることを期待しています。

2022年7月から12月にかけて、ラファエック学習メディアチームは東ティモール共和国大統領府から招待を受け、様々なブックフェアに参加し、読書雑誌、絵画や図画コンクール、その他のインタラクティブなセッションを通して、プレススクールや小学生、若者、地域住民を巻き込みました。これらの活動は、ディリの大統領府、アタウロ、リキカ、ピケケの各市町村で開催されました。この活動は、生徒の読み書き能力の発達を支援・強化し、包括的で公平な質の高い教育へのアクセス確保に関する意識を高め、東ティモールにおける生涯教育を促進することを目的としています。

CARE の GPQ と連携したラファエック・コミュニケーションチームは、SEII と Mane ho Visaun Foun (MHVF) と関わり、2022 年 12 月の 16 日間のキャンペーンで若者、大学の学生、障がい者をターゲットにしたイベントを開催しました。イベントには、合計 26 名（女性 11 名、男性 15 名）が参加しました。SEII と MHVF のキースピーカーは、女性に対する暴力を終わらせるためのアプローチに焦点を当てました。また、東ティモールにおける GBV 防止に関するオープンな議論と考察を促進するために、CARE の社会分析と行動（SAA）ツールが使用されました。

さらに、ラファエック・プロジェクトは、アイレウ、ボボナロ、エルメラ、ラウテム、マナトゥート、ビケケの各自治体の教育当局、自治会長、その代表者、および各自治体で活動する他の機関や開発組織との会議を企画し、出席しました。この会議では、各組織が地方政府の作業計画と調整するための優先事項を共有し、これらの自治体で活動する国際機関、地方組織、市民社会組織の数を把握することを目的としていました。自治体職員の入れ替えがあったため、私たちは新任の職員に、私たちのプログラムを紹介し、プロジェクトの活動や受益者のデータに関する最新情報を提供するために招待されました。

Suco の当局と学校の代表者は、ラファエックの重要性と、学習プロセスを強化するために地域社会や子どもたちをどのように支援しているかをよく理解しています。そこで、雑誌を大切に使い、十分に活用するよう、地域や生徒の意識を高めるために、伝統的なタラバンドゥの取り組みを実施しました。これらの活動は、Laline Suco、Viquique、Loidahathe Suco で実施されました。

半年間、ラファエック・プロジェクトは、KSTL、EAMO、INDDICA、Rotary Club of Dili、Xanana Reading Room、UNTL、UNITAL、UNDIL、Assosiasaun Esperanca Feto Defisiensiã、RHTO といった地元のパートナーや組織と様々な関わりを持ちました。これらの活動は、パートナーシップをさらに強化し、ラファエック・マガジンやコミュニティ・ダイアログの内容を充実させる方法を探ることに重点が置かれました。編集委員会は 2 回実施され、印刷前に雑誌の 2 版（2022 年第 1 号と 2022 年第 2 号）の内容を確認し、承認しました。

編集委員会は、制作サイクルごとに 1 回開催され、雑誌の内容の関連性や適切性、国のカリキュラムとの整合性を検討します。ボードメンバーは、教育・青年・スポーツ省、MFAT、ラファエックチームの代表者で構成されていました。

ラファエック・プロジェクトは、ケア・インターナショナル・ジャパン（CIJ）のスタッフ、ケア・オーストラリアの CEO、CITL プログラム・ディレクターを受け入れ、リキカ州マウバラの EBF 1.2 Sao Joao Brito を訪問しました。訪問の目的は、生徒、教師、保護者にラファエックを配布する様子を見学することでした。また、雑誌を受け取った生徒の反応ややり取りを見ることができ、雑誌の内容についても、生徒や先生方と交流しました。

モニタリング結果

ラファエックのモニタリング、評価、説明責任、学習（MEAL）チームは、3 名の MEAL オフィサーとシニア MEAL オフィサーで構成されており、副プログラムマネージャーが、データ管理アドバイザーの支援を受けながら監督しています。MEAL チームは、データのタイムリーな収集と分析を確実にし、その結果をプロジェクトチームに提示することで、フィードバックとレビューのプロセスを促進することに大きな進歩を遂げました。

MEAL チームは、モバイルデータ収集・管理システムの効果的な使用方法について、現場の実施チームに対して定期的なトレーニングと実地サポートを提供し続けました。現場チームの間では、この新しいシステムを使用する能力に対する信頼が高まっており、現場実施チームと MEAL チームによって収集されたデータの質は、大幅に改善され続けています。

報告期間中、モニタリング・評価・説明責任・学習（MEAL）チームは、生徒、教師、コミュニティに対して **880 件** の個別インタビューを実施しました。その内訳は、男性 345 人、女性 535 人で、13 の自治体で障がいのある生徒 3 人とコミュニティ・メンバー 1 人が含まれています。過去 6 ヶ月間、対象自治体の 51 校の教員を中心に、合計 51 回の授業観察を実施。合計 212 校を訪問し、124 人の教師（女性 71 人、男性 53 人）と面談しました。調査結果の概要は以下の通りです。

学生の結果

- **98%**の人が「ラファエック・キーク」を受け取ったことがあると回答。
- **97%**が雑誌を家に持ち帰ったと回答し、雑誌が学校を楽しくするのに役立つと答えた。また、同じ回答者の **31%**が、自宅で親と一緒に雑誌を読んでいると回答しています。
- **99%**の方が「ラファエック・プリマ」の雑誌を受け取ったと回答しています。
- 雑誌を持ち帰ると回答した人は **87%**でした。

教師の結果

- 回答者の **97%**が教師用雑誌を受け取ったことがあり、教育実践の改善に役立ったと回答しています。
- **94%**の人が、「教師用雑誌には、教室での生徒管理に関する有益な情報が掲載されている」と回答しています。
- **98%**の人が、雑誌に掲載されているアクティブ・ラーニングの手法を、教室内で 1 つ以上使えると回答しています。
- **90%**の人が「体罰は有益ではない」と回答しています。

コミュニティ・メンバーの結果

報告期間中、MEAL チームは **159 人**のコミュニティ・メンバーと面談を行いました。調査結果の簡単な要約は以下の通りです。

- **98%**の回答者が、娘や息子からコミュニティ雑誌を受け取っており、子どもが学校に通い、家庭で雑誌を読んでいることを報告しました。
- **92%**の世帯主が、家庭でコミュニティ雑誌を読んだり、子供とゲームをしたりすることが多いと回答しています。
- **58%の回答者が**、配偶者が雑誌を読んでいると回答しました。

ラファエックの社会的企業化

ラファエック延長のためのビジネスケースで詳述されたように、ラファエックと CARE は、この延長期間中に、ラファエックが持続可能で効果的な社会的企業にうまく移行するための有意義な措置をとることを約束します。報告期間中、ラファエックの社会的企業への移行を確実に軌道に乗せるために、重要なステップが取られました。主要な取り組みとして、ラファエックの事業計画（2023-2027 年）の改訂プロセスの開始が挙げられます。改訂プロセスは 2023 年の第 1 四半期に完了する予定です。最終決定後、ラファエックのビジネスプランは、CARE 内と、MFAT を中心としたすべての主要パートナーとの外部で広く社会化される予定です。

報告期間中、ラファエックチームは合計 **128,000 US ドル**の持続可能な資金を生み出しました。これらの資金は、以下の Mercy Corps、Water for Women、Grameen Foundation、Grow Timor、FHK グループ、そして私たちの仲間の CARE プロジェクトの HATUTAN と HAMORIS から集められました。これらのスポンサーシップは、ラファエック・マガジンへのコンテンツ掲載、ポスター作成、折り込みチラシ、ビデオコンテンツの制作など、さまざまな種類のサービスに対するものでした。Facebook のスポンサーシップからは、合計 **500 US ドル**の資金が生まれました。これは少額ですが、ラファエックチームは Facebook ページがもたらす今後の可能性に期待しています。

2022 年 12 月現在、ラファエックはスポンサーシップから合計 **180 万 US ドル**の資金を生み出しています。これらの資金の一部は、重要なコミュニケーション・マーケティングチームの資金として使用されていることは特筆すべきことです。

ラファエックは、現地のパートナーにとって利用しやすい存在であり続けるよう努力しています。ラファエックのスポンサーシップ・モデルの包括性を確保するために、プロジェクトチームは、補助金付きのスポンサーシップ・アプローチの下で、地元の市民社会組織を巻き込むよう取り組んでいます。

ラファエックと Grow Timor は、教育・青年・スポーツ省の「School from Home」イニシアティブを支援するため、「ラファエック・キーク」のコンテンツを制作して書籍にまとめ、2023 年 1 月に HANDS に印刷・配送するパートナーシップ契約を締結しました。

ラファエックは最近、パートナーや仲間の CARE プロジェクトにビデオ制作サービスを提供するようになりました。CARE プロジェクトの仲間である Water for Women とのパートナーシップを通じて、コミュニケーションチームは Water for Women プロジェクトが実施した活動を紹介する 3 分間のビデオを開発・制作しました。

オンライン・プラットフォーム

ラファエックの Facebook ページは、定期的に新しい指標を達成し続けています。2022 年 12 月現在、ラファエックの Facebook は **150,260 人**のアクティブフォロワー（42%が女性）に達し、東ティモールで最もフォローされている Facebook ページのトップ 5 の 1 つになっています。報告期間中は 500 US ドルの資金調達にとどまりましたが、チームは、東ティモールの対応可能な市場には、まだサービスを提供していない

大きなセグメントがあると信じています。この未対応の部分にアプローチするために、プロジェクトチームは、開発パートナーと民間セクターのパートナーの両方において、Facebook ページについての認知度を高める努力を強化する予定です。

この報告期間中、ラファエックは民間セクターのパートナーである FHK グループの獲得も成功させることができました。チームはこのパートナーシップを機に、民間セクターのパートナーのニーズや要件について、より深く学んでいく予定です。

報告期間中、ラファエックのウェブサイトには合計 **6,231 人**の訪問者がありました。訪問者の 86.85%が携帯電話から、12.06%がデスクトップから、1.09%がタブレット端末からアクセスしていました。

今後 12 ヶ月間、ラファエックチームは新たに立ち上げたラファエック YouTube チャンネルに注力する予定です（現在、チャンネル登録者数 **183 名**、再生回数 **520 回**）。YouTube チャンネルは現在 183 チャンネル、520 回再生されています。ラファエックチームは、Facebook ページと YouTube チャンネルを、サステナビリティ・ファンドの効果的な資金調達手段として活用する予定です。

国内メディアで紹介されたヤング・ジャーナリストたち

この半年間、ラファエック・プロジェクトは、東ティモール内の主要なステークホルダーや影響力のある人物とのパートナーシップを強化しました。プロジェクトでは、対象校の生徒（障がい者を含む男女）が参加し、関連する女性のロールモデル、地元政府のリーダー、市民社会組織の代表者へのインタビューを実施しました。その目的は、女性の発言力、リーダーシップ、意思決定、ジェンダー平等などに関連する重要なメッセージを伝えることでした。また、これらの活動は、若い学生たちがジャーナリズムの実践的な経験を積み、自尊心、自信、人前で話す能力を高め、ロールモデルとして他の学生を鼓舞することにもつながりました。報告期間中にインタビューに応じたのは以下の方々です。

- 「政府における女性のリーダーシップ」についてメッセージを伝えた、マナツト行政官の Clara de Carvalho Ximenes さん。国内メディアはこのイベントの様子を撮影し、GMN TV と RTTL TV で放映しました。
- 「女性のリーダーシップと意思決定」をテーマに講演した、NGO Fundasaun Luta ba Futuru ディレクターの Maria Boki Fernandes さん。国内メディアは、このイベントの様子を撮影し、GMN TV と RTTL TV で放送しました。
- 「女性の役割とリーダーシップ」について考えを述べた、東ティモール青年国民会議所 (CNJTL) 会長の Maria Dadi さん。
- 「障がいを持つ女性のリーダーシップ」について語った、障がいを持つ女性協会ディレクターの Madalena da Costa さん。
- ジェンダーに基づく暴力防止に関する 16 日間のキャンペーンの一環として、ラファエックチームはザナナ読書室と共同で、社会的包摂に関する国家事務局 (SEII) の代表者と Mane ho Visaun Foun のディレクターを招いて、UNTL、UNDIL、GODIVA、RHTO の若者参加者に女性に対するジェンダーに基づく暴力撤廃のメッセージを伝えました。国内メディアはこのイベントの様子を撮影し、GMN と RTTL TV で放送しました。

- 2022年8月、ラファエックのヤング・ジャーナリストは、環境保護を推進するため、環境活動家で東ティモールの有名アーティスト、エゴ・レモスにインタビューをしました。

学校案内図

以下の地図は、過去6ヶ月間に1,616校の小学校に配布されたラファエックの雑誌の分布図です。これは、ラファエックのスタッフが配布のために訪問した際に、各学校から収集したGPS座標をもとに作成されています。



図5：「ラファエック」の雑誌を受け取っている全ブレ・小学校の地図。

横断的な課題

男女共同参画、子どもの保護、包摂性、セーフガード

「ラファエック・キーク」「ラファエック・プリマ」「ラファエック・バ・マノリン」「コミュニティ・ラファエック」、そしてオンライン・ソーシャルメディア・プラットフォームのコンテンツの設計と開発において、ジェンダー平等と包括的教育システムは中心テーマとなっています。私たちのコンテンツマップは、CITLのジェンダー・プログラム・クオリティ（GPQ）チームからの定期的な相談とサポートにより、ジェンダー平等とインクルーシブ教育に特に焦点をあてています。ラファエック・プロジェクトのジェンダーフォーカルポイントと制作・出版マネージャー、そしてGPQチームは、最初の企画会議と内部レビューの段階で、コンテンツがCITLのテーマ別優先分野（TPA）と密接に整合するように、継続的に推奨とフィードバックを提供しました。さらに、ジェンダー平等や社会的包摂といった分野横断的な課題も、モニタリング・評価・学習の枠組みやデータ収集ツールに含まれるように、さらなる配慮がなされました。

ラファエックチームは今後もGPQチームと協力し、男性や少年を積極的に巻き込みながら、ジェンダーを変革する方法で、生徒のスキルをさらに向上させることを目指していきます。ラファエックは、公平な男女

関係にまつわる効果的なメッセージを伝えながら、子どもたちのスキルと向上心を伸ばすために、女性のロールモデルを促進することに重点を置いています。

セーフガードと児童保護の観点から、ラファエック・マガジンとソーシャルメディア・プラットフォームは、CITLのセーフガード、説明責任、報告メカニズムに関するメッセージを発信するチャネルとして利用されています。さらに、CITLのホットラインの番号も4誌すべてで掲載されています。ラファエックが全国に広がり、現場スタッフが生徒、教師、コミュニティ、青少年と常に接触していることを考慮すると、適切な報告メカニズムとシステムは優先事項であると考えられています。報告メカニズムは、ドナー、政府機関、パートナー、受益者（特に、この国で最も恵まれない地域に住む弱い立場の女性や女子）といった主要なステークホルダーから提起された苦情や勧告を記録、收容、対処するように設計されています。

ラファエック・プロジェクトは、学校レベルで障がいを持つ生徒の自信回復をサポートするなど、プロジェクト活動の中で障がいを持つ人々を促進することを優先してきました。プロジェクトでは、特定の障がいを持つ生徒が、身体的な制約から学校のさまざまな活動から排除されることが多く、学校はこれらの生徒の可能性に気づき、支援することを怠っていることが確認されました。今年度は、2人の障がいを持つ学生（Welcianaと



図6：インタビューに応じる Welciana と Antonio CNJTL 会長の Maria Dadi Soares Magno さん。

Antonio) が選ばれ、Maria Dadi Soares Magno さんに「市民社会組織における女性のリーダーシップと意思決定の促進」についてインタビューを行い、将来なりたい姿を夢見る自信と志を育むことを目的としています。障がいのある児童・生徒の皆さんへ、Magno さんからのメッセージです。「**体が不自由だからといって希望を失うことなく、夢と可能性を持って目標に向かって進んでください。私たちは家族、社会、国家の中で皆平等です**」

プロジェクトチームは、ヤング・ジャーナリストたちのアプローチが、障がいを持つ人々、特に生徒や教師に対してより敏感になり、より密接に連携するための支援になると考えています。

さらに、ラファエック・プロジェクトは、主要な地方政府機関、市民社会組織、関連するコミュニティグループと実施するさまざまな社会活動において、障がいのある若者を支援するために介入を拡大しました。その目的は、彼らが地域や社会の一員であることを実感できるよう、自信を高めることでした。プロジェクトは、「Raes Hadomi Timor Oan」

(RHTO) という障がい者団体とマナトゥートのユースセンターから2人の若者代表が参加し、Manatuto Villaの現管理者である Clara Clara de Carvalho Ximenes にインタビューするイベントを企画しました。インタビューは、「地方自治における女性のリーダーシップ」をテーマに行われました。

「女性仲間へのメッセージは、常にアンテナを張り、機会が

あれば積極的に参加し、自分のビジョンと決意を証明してほしいということです」このインタビューは、コミュニティ・マガジンに掲載され、他の女性たちが将来なりたい自分の夢や目標を明確にすることを促進し、鼓舞するものでした。また、このインタビューは、若いインタビュアーが人前で話す際の知識、能力、経験を磨くのに役立ちました。



図7：Manatuto Villaの管理者である Sra. Clara Clara de Carvalho Ximenes にインタビューする2人の若者。

ラファエックの成果

モニタリングの結果、ラファエックを使用している生徒は、使用していない生徒に比べて読解力が5%高いことがわかりました。また、使用していない生徒よりも、7文字多く識別できます。家庭レベルでは、ラファエックを読んでいる人は、そうでない人に比べて13%も貯蓄があることが判明しました。

雑誌に載っているゲームや道具は、親子の交流の場にもなっています。あるお母さんは、「先月、ケーキを作ろうとしたら、子どもが『待って、ラファエックを買ってきてあげるから、あのよう雑誌に載っていることをもとにケーキを作ってごらん』と言ってくれました」

以下では、ラファエックの関連性、効率性、持続可能性について見ていきます。

関連性：

特に東ティモールの農村部の恵まれない地域に住む生徒の86%²が、家庭レベルで利用できる唯一のテトゥン語学習教材として、ラファエックを利用しています。

ラファエック・プロジェクトは、教育・青年・スポーツ省および主要な教育開発パートナーとの長年のパートナーシップを維持し、ラファエックがGoTLの長期的な優先事項との整合性を確保することを目的としています。また、MoEYSの主要な技術パートナーとの連携を強化することで、外部諮問委員会の運営をサポートし、コンテンツの関連性、品質、国家カリキュラムとの整合性を確認するためのフィードバックを提供し、印刷と学校への配布前に最終承認を行います。本誌は、東ティモールの教育ニーズを直接支援する重要な副教材です。

ラファエックのコミュニティ・マガジンは、東ティモールで最も不利で脆弱なコミュニティのニーズに対応するための情報を届けるために重要な役割を果たす不可欠な要素です。雑誌の主要なメッセージは、教育、育児発達、健康、衛生、栄養、農業、マイクロビジネス、男女平等、女性の経済的エンパワーメント、女性の声などに焦点を当てています。その他、男女平等、子どもの保護、セクシャルハラスメント、搾取、虐待の防止などにも言及しています。また、ラファエックのコミュニティ・マガジンは、東ティモールのGoTLとMFATの開発優先順位と密接に連携しています。

効率性：

この報告期間において、ラファエック・プロジェクトは、東ティモール全土の1616校の小学校とコミュニティに対して、最近の洪水や地滑りなどの厳しい気象条件にもかかわらず、2種類の雑誌を届けることに成功しました。

2022年12月にプロジェクトの振り返りとチームビルディングのワークショップを成功させ、うまくいったこと、改善すべき点、学んだことを評価することを目的としました。チームはまた、ラファエックの効率性をさらに高めるために、調達や供給に関するさまざまなアイデアについて議論しました。セッションの最後には、今後数年間、ラファエックが成功し、効率的な社会的企業へとスムーズに移行できるよう、チームとしての集団行動を定義しました。

現地での活動や天候不順による遅延など、さまざまな課題がありましたが、効果的なプランニングにより、プロジェクトの燃焼率は**100%**を達成することができました。

サステナビリティ：

ラファエック・プロジェクトは、持続可能性を確保するために、たゆまぬ努力を続けています。プロジェクトは発足以来、長い道のりを歩んできました。実のところ、今回の延長戦は、その一部がサステナビリティ



図7：2022年9月に発行される2023年第1版の雑誌内容を検討するための外部諮問委員会の開催中（ディリのラファエックオフィス）。

² 出典はラファエック中間評価(2022年)

イ・ファンドによって賄われています。現在の契約では、全プロジェクト費用の30%がサステナビリティ・ファンドから支払われ、残りはMFATが資金を提供することになっています。次の資金調達ラウンドでは、サステナビリティ・ファンドから資金提供される経費の割合を増やすために、さらに努力しています。

当プロジェクトは、報告期間中、既存および新規のスポンサーとの関係を継続し、雑誌およびソーシャルメディアにコンテンツを掲載することで追加資金を調達しました。

2023年第1四半期に最終決定される改訂版ラファエック事業計画（2023-2027）は、ラファエック成功する社会的企業へと変化するための指針となります。また、移行プロセスをより良く導くために、包括的な移行計画も改訂版事業計画に併記される予定です。

最後に、報告期間中、ラファエックチームは合計**128,000** USドルのサステナビリティ資金を生み出しました。これらの資金は、ラファエックの雑誌への掲載、ポスターの作成、折り込みチラシ、ビデオコンテンツの制作などのサービスの対価として、さまざまな既存および新規のパートナーから調達されたものです。

戦略と教訓

戦略的・運用的課題：

- ラファエックは海外で印刷され、印刷から発送まで約2カ月を要します。このオプションは、より迅速な納期を必要とする数少ない開発パートナーとのスポンサーシップの取り決めには実行不可能でした。CAREは、ディリで「ラファエック・バ・マノリン」の印刷を試験的に行うためにKOICA印刷機を使用する可能性について、MOYESと検討し、議論するための追加オプションを検討しました。KOICA印刷機の技術スタッフと非公式に連絡を取りましたが、提供された情報によると、印刷機のメンテナンスに関連する追加費用のため、このオプションは実現不可能のようです。チームは、来四半期にMoEYSのパートナーシップ・協力担当ゼネラル・ディレクターと会い、さらなる話し合いをするよう取り組んでいます。
- また、同じようなコストでより良い納期を提供できる、地域の優秀な印刷会社の選択肢も模索しています。
- また、MoEYSがラファエック・マガジン、特に教師用雑誌に財政的な貢献をすることができるかどうか調べています。今年、MoEYSの国家予算の配分が大幅に増えたため、プロジェクトはMoEYSに対し、大臣予算の中でラファエックの教師用雑誌にコミットするよう働きかけを行う予定です。しかし、その確約はまだ不透明です。
- 昨年8月、教育・青少年・スポーツ省の各レベルで重要な役割を担う人物が入れ替わり、プロジェクトにとって大きなチャレンジとなりました。プロジェクトとその活動がMoEYSの国家教育の優先順位や目標にどのように貢献しているかを説明するために、チームはさらなる時間と労力を割かなければなりません。しかし、ラファエックが長年にわたって築いてきたMoEYSとの非常に強い関係によって、プロジェクトはこのような難題を乗り越えることができました。

教訓

- アドボカシー活動を拡大し、寄付者、政府機関、開発パートナー、スポンサー、民間セクター、市民社会組織、国・地域・地方レベルの重要なアクターとより多くのパートナーシップを構築することが重要です。
- ラファエックは、持続可能な資金調達を拡大するために、新製品の創造とテストのプロセスをさらに発展させる必要があります。
- 効果的でタイムリーなコミュニケーションにより、チームは社会的企業への移行に伴う変化に対してオープンで受容的であることができました。チームは効果的に適応し、機会を探っています。新しいイノベーション、デジタル化、複雑なリスクを処理する能力の向上、そしてそれらを適切に対処することを目指しています。

次回の報告期間における優先事項

これからの12ヶ月は、ラファエックにとって重要な時期です。ラファエックが持続可能で成功する社会的企業へと移行するための重要なステップを踏むことになるからです。これらは、ラファエックのコミットメントである3版のクオリティマガジンと「リヴル・セマティック・バ・マノリン」の制作と配布に加え、ラファエックが行うことになるものです。これらの重要な優先事項のいくつかを、以下に示します。

- ラファエック・マガジン3版の制作・配布。
- 「リヴル・セマティック・バ・マノリン」の制作・販売。
- 13回のコミュニティ・ダイアログを完了する。
- ラファエック事業計画（2023-2027）および移行計画の改訂版の最終化と社会化。
- 「ラファエック以降プラン」の実施を開始する。
- YouTube 戦略の最終決定。
- 新商品アイデア、特に子供向け電子書籍について大きく前進させる。
- マーケティングと営業活動を強化する。これには、サステナビリティ・ファンドを成長させるために、新しいパートナーや顧客を特定し、連絡を取り、会うことを通じた集中的なマーケティング活動が含まれる。
- 地域および世界の学校とのパートナーシップ、ラファエックのお絵かきと塗り絵、会報、インフルエンサー、コンサルティングサービスなど、資金提供されていない製品の実行可能性を理解するために市場分析を行う。
- 上記の新商品・サービスの一部を試行が可能。
- オンラインプラットフォームを改善し、マネタイズに向けた取り組みを行う。